

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00604

研究課題名（和文）外国人生徒の学びの場に関する研究－特別定員枠校と定時制・通信制高校の全国調査

研究課題名（英文）A Study of Foreign Students' Learning Spaces: A Nationwide Survey of Special Quota Schools and Part-time and Correspondence High Schools

研究代表者

田巻 松雄（Tamaki, Matsuo）

宇都宮大学・国際学部・名誉教授

研究者番号：40179883

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 22,000,000円

研究成果の概要（和文）：2019年度は、外国人児童生徒としての転落を経験し、在留資格を失い強制送還された1人の外国人のライフヒストリーを追跡する研究を行い出版した。2020年度は、代表者が10年間組んできた外国人児童生徒教育支援事業の成果と課題に関する報告書を刊行した。2021年度は、東京都の公立夜間中学8校と神奈川県公立夜間中学2校を対象に、卒業生の進路状況を調査した。2022年度は、本研究の総合的成果として、『多様な学びの場』をタイトルとする本を出版した。2023年度では、自主夜間中学の実践をテーマとする研修会を計8回開催した。5年間の研究の成果と課題を総括的に議論するためのシンポジウムを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後ますます増大すると予想される外国人生徒を対象に、学び場の保障と、進路決定メカニズムを、制度的要因、高校側の要因、生徒の家庭的背景と個人の側の要因など、多面的な観点から解明しようとしている点に、学術的意義が認められる。また外国人生徒の日本社会への適応と定着を促す施策に基礎を提供するという意味で、社会的意義も認められる。

研究成果の概要（英文）：In FY 2019, We conducted and published a study tracing the life history of one foreigner who experienced a fall as a foreign pupil and was deported after losing his residency status. In FY2020, a report was published on the achievements and challenges of the education support project for foreign students that the representatives have been working on for 10 years. In FY2021, we surveyed the career paths of graduates from eight public evening junior high schools in Tokyo and two public evening junior high schools in Kanagawa Prefecture. An English version of the book (2019) was published. In FY2022, as a comprehensive result of this research, we published a book titled "Diverse Places of Learning."

In FY2023, a total of eight workshops were held on the theme of practicing voluntary evening junior high schools. Then, a symposium entitled "How to Create and Nurture Diverse Learning Spaces" was held to comprehensively discuss the results and challenges of the five-year study.

研究分野：社会学

キーワード：多様な学びの場 外国人生徒 特別定員枠 定時制通信制課程 夜間中学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、外国人生徒が学ぶ様々な場のなかで、外国人生徒を積極的に受け入れている特別定員枠を有する高校、日本語指導を必要とする外国人生徒をはじめ多様化・複雑化する生徒を多く受け入れている定時制高校、今後外国人生徒のより大きな受け皿になっていく可能性が高い通信制高校に主な関心を向け、現状分析を通じて、かれらに対する学び場の保障のあり方について研究する計画を立てた。研究の進展の中で、外国人生徒が全生徒の7割前後を占める公立夜間中学と外国人学習者が一定程度を占めるとされる自主夜間中学を対象に加えた。

特別定員枠は「受け入れて育てる」発想に基づく制度で、外国人生徒の高校進学を確実に支えてきた。しかし、特別定員枠校はまだ全国的に少なく、同じ枠校でも受験資格や「定員内不合格」の扱いで地域差がある。このようななか、特別定員枠校に関する研究は神奈川県や大阪に関するものが主で、全国的動向、地域差、課題などを総体として捉える研究は少ない現実があった。定時制高校は多様な学習者を受け入れている点で注目されるが、多様な学習者は様々な困難を抱える生徒でもあり、教育現場では厳しい課題が少なくない。この点で、注目すべき教育実践に取り組んでいる学校の質的研究の必要性が高いと思われた。通信制課程については、全体的な状況が把握されておらず、基礎的研究の蓄積が必要と思われた。

夜間中学をめぐる状況は劇的に変化し始めていた。2016年の教育機会確保法の制定の影響を受け、公立夜間中学の新設が進んでいる。2019年4月には川口市と松戸市で公立夜間中学が設置され、2021年4月に徳島県と高知県が県立の夜間中学を設置した。このことにより、公立夜間中学は36校となったが、設置されていない県は未だに多く、どのような公立夜間をどのように設置していくのかに関する研究が問われていた。また、公立夜間中学が設置されていない地域を中心に自主夜間中学が市民ベースで活動しており、その数は確実に増えていると思われるが、自主夜間中学の必要性、意義、教育実践に関する研究は極めて少ない現状があった。公立夜間中学と自主夜間中学の関係を問いかける研究はほぼ皆無であった。

## 2. 研究の目的

初年度に問題意識、仮説、調査方法、分析枠組みについての共通理解を図るために基本月1回研究会を開催した。バーンスタイン、ブルデュー、フレイレなどの著作を読みながら、「外国人生徒の学びの場」に対して本研究グループが目指すべき研究の在り方について議論を重ねた。そのうえで、外国人生徒が学ぶ多様な学びの場に着目し、特徴や課題についての現状分析と課題改善に向けた知見を得ることを目的とする研究計画を立てた。具体的な研究課題と目的は以下の通りである。①特別定員枠校：全国的な動向、地域差、意義、課題を明らかにする。②定時制高校：日本語指導が必要な外国人生徒を多く受け入れている高校での教育実践の事例研究。他の定時制高校に参考となる知見の獲得を目的とする。③通信制高校：先行研究が極めて少ない中で、全国的な動向や注目すべき事例についての基礎データを作成する。④夜間中学：公立夜間中学の歴史や新設状況を把握しながら、新設夜間中学の事例検討を行い、その現代的意義や役割を明らかにする。⑤自主夜間中学：全国調査が久しく実施されていない事情を踏まえ、

全国アンケート調査を実施し、基本特性と多様性を明らかにする。⑥栃木県における外国人生徒の進路状況：代表者が2010年度より実施してきた栃木県におけるすべての公立中学校の外国人生徒の進路状況把握調査は引き続き行う。⑦ライフヒストリー研究：義務教育課程を十分に学ぶことが出来ず、高校進学も叶わなかったことで「転落してしまった」1人の外国人の軌跡を追求し、学びの場の不在の大きな問題性を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究グループのメンバーは、現代日本社会の中で外国人生徒が生活を切り拓いていくには高校進学と高校卒業が極めて重要であると共通認識している。このため、当初は、特別定員枠校の卒業生と中途退学者、定時制高校や通信制高校の卒業生と中途退学者を対象にして、高校で学ぶことの意義や重要性を明らかにするためのインタビュー調査を計画していた。定時制・通信制課程については、東京を拠点に学齢超過外国人の学習支援活動をしているNPO団体に協力を得ながら東京で集中的に行うことを計画していたが、これが実現できなかった。この聞き取り調査の趣旨・目的には当団体から理解と賛同を得られていたが、主に当団体の都合で、初年度中に実施するまでには至らなかった。この事情も含め、上記の調査研究の準備に時間がかかっている状況の中で、コロナ感染拡大により、対面式の調査は実施困難となった。従って、当初の研究計画はかなりの変更を余儀なくされた。

○特別定員枠校：特別定員枠校及び管轄教育委員会訪問調査。主に関係者からの聞き取り。

○定時制高校：文科省が優れた実践を行っていると選出した定時制高校5校について、補足調査を踏まえて、特色ある教育実践の取り組みと諸課題についてまとめた。関係者からの聞き取りと資料分析。これまで調査研究がほとんど皆無であった茨城県・栃木県の定時制高校調査。訪問調査と資料分析。

○通信制高校：宮城県はじめいくつかの地域の通信制高校の見学と資料分析。

○公立夜間中学：東京都と神奈川県公立夜間中学校を対象に卒業生の進路状況調査を行った。東京都については数十年に及ぶ実態調査記録誌を参考資料とし、神奈川県では2校を対象に聞き取りと資料分析を行った。徳島県の事例分析。2020年度4月に徳島県が開校したしらさぎ中学校は、初めての県立夜間中学であること、単独校であること、県立の定時制高校キャンパス内に設置された点で、それまでにない全く新しいタイプの夜間中学であった。このため、背景や特徴を明らかにするための訪問調査を行った。

○自主夜間中学：自主夜間中学関係諸グループを対象とする全国アンケート調査を実施した。調査票は質問紙の郵送とデータ送付の2つの方法で行った。27団体から回答が得られた。この調査結果を踏まえ、いくつかの回答団体関係者から聞き取り調査を行った。

○外国人生徒進路状況調査：栃木県における公立夜間中学外国人卒業生の進路状況調査を毎年計5回、質問紙を郵送する方法で行った。

○ライフヒストリー研究：外国人児童生徒から不法滞在者へ「転落」した日系ブラジル人の日本での20年を追跡し、転落した背景を探るとともに、転落の意味を「罪と罰の均衡」という視点から分析した。研究方法としては、入会施設での面会、保護者への聞き取り、裁判記録と手紙の分析、少年院訪問、日本における入管施設での長期収容問の特殊性を明らかにするための台湾訪問調査等を実施した。

#### 4. 研究成果

##### ○特別定員枠校と定時制

特別定員枠を有する定時制高校として、札幌市立大通高校に注目した。大通高校の渡日帰国生徒教育の特徴については、石川朝子（2023）が詳しく論じている。石川は、外国人非集住地域と言われる北海道において外国人教育を支える論理を導き出すことを目的に、大通高校で特別入試枠が設置された経緯や教育実践、及び教育支援ネットワークの在りようを分析した。具体的には、渡日帰国生徒教育に関わる資源の配置として、カリキュラム（日本語科目・母語支援）、教員配置・体制（国際クラスの設置・遊語部という部活動等）、学校外部資源との連携体制に着目し、その特徴と意味を分析した。その結果、多様な生徒の学びの場として構想された定時制単位制ならではの「公正」さに根差した教員・学校文化の様相を明らかにしている。

##### ○定時制課程

『定時制・通信制課程における多様なニーズに応じた指導方法等の確立・普及のための調査研究』（文部科学省平成30年度委託調査研究報告書）では、北海道札幌市立大通高校、群馬県太田フレックス高校、静岡県立浜松北高校、愛知県立刈谷東高校、三重県飯野高校の5校が外国人生徒に関する優れた教育実践を行っている高校として取り上げられている。井田（2022）は、この5校の特色ある実践をまとめている。また、横溝（2022）は、上記の調査では回答のなかった茨城県の定時制3校（農業、工業、普通）を取り上げ、常総市に新設された公立夜間中学との関係も視野に入れて、その実践をまとめている。茨城県の定時制高校に対して初めて実施された調査である。以上の研究成果は、『夜間中学と定時制高校一現状を知り、多様な学びの場の可能性を考えよう』（研究代表者 田巻松雄、宇都宮大学、2022年3月刊）に収録した。

##### ○公立夜間中学

東京都並びに神奈川県における公立夜間中学調査からは、近年の夜間中学は、若年の学齢超過外国人が高校進学並びに日本語学習を目的に学ぶ場としての性格が強いことが明らかにされている。この研究成果も『夜間中学と定時制高校』に収録されている。

##### ○自主夜間中学

全国アンケート調査を実施し、自主夜間中学27団体の教育実践や組織運営上の特色、課題などが明らかとなった。総体としてみれば、自主夜間中学は年齢・国籍・バックグラウンド等が多様な学習者が学んでいる場であるが、個別にみていくと学習者の特徴や教育実践のあり方の面で多様性が確認された。学習者に着目すると、「日本人集中型」、「外国人集中型」、「高齢者集中型」、「若年層集中型」等に分類される。調査結果からは、自主夜間中学は、公立夜間中学を補完的な役割を担うというよりも、むしろ学校教育では実現が難しい学習者に寄り添う教育を実践している点で固有の意義を有する学面でになっていると捉えられる。人・会場・資金の面で苦勞している点はほぼ共通しており、地域からの支えが必要になっている現実も確認された。調査結果は、『夜間中学と定時制高校』や田巻（2023）でまとめられている。

○外国人生徒進路状況調査：栃木県内の公立中学校卒業した外国人生徒の進路状況が、全体的動向、日本語指導有無別・国籍別の進路結果、特別措置利状況などを中心に整理されている。本県では、外国人生徒への配慮として特別措置制度があるが、日本での就学歴3年以内が受験資格となっていることや、進学希望高校学校長の裁量で受験資格に認否が決められるなどの現実が利用状況を低い程度に留めていることが明らかとなっている。また、栃木県では「定員内不合格」が出されている現実も確認されている。

### ○外国人生徒のライフヒストリー研究

外国人児童生徒から「不法滞在者」へ転落した日系ブラジル人の日本での 20 年を追跡し、学びの場の不在が転落を強く規定したことおよび「不法滞在者」を一律に悪質な外国人と見なし厳格な管理の対象とする入管政策がかれの社会的更生を阻んだ現実を明らかにした。その結果、罪の重さに比べてはるかに重い罰が課される結果となった。外国人児童生徒の学びの場の保障が極めて大きな政策課題である知見も得られた。研究の成果は『ある外国人の日本での 20 年』（下野新聞社、日本語版 2019、英語版 2022）として書籍としてまとめられた。

### ○本研究の総合的成果

本研究の総合的成果として、研究協力者を含む 12 名で『外国人生徒の学びの場 多様な学び場に注目して』（下野新聞社）を上梓した。第一部では、学校における多様な学び場として、夜間中学、定時制、特別定員枠を、第二部では、学校以外の学び場および人と学び場をつなぐ場として、自主夜間中学、移民団体、外国人学校、外国人教育相談窓口を取り上げた。第三部では、学び場からの排除や外国人生徒が直面する固有の壁などを取り上げた。学校と学校以外の多様な学び場を網羅的に取り上げた書物は類がないと思われる。以下、各章とコラムのタイトルを示す。第 1 章「外国人集住地域における多様な学びの場の現状と課題—子どもたちの関係流動性および承認/包摂から捉える—」。第 2 章「夜間中学・定時制高校の制度と機能—ドイツとの比較を通して」。第 3 章「定時制単位制高校における外国人生徒の教育を支える論理—外国人特別入試枠をもつ市立札幌大通高校の事例から—」。第 4 章「台湾の夜間中学校の役割と社会的意義—補習教育と生涯教育の狭間に—」。コラム「ペルーの教育制度における代替的基礎教育の位置付け」。第 5 章「自主夜間中学での学び—組織らしくない組織による学校らしくない学校づくり—」。第 6 章「移民の子どもに求められる多様な学びの場—ペルー人移民団体を事例に」。第 7 章「学びをつなぐ場としてのブラジル人学校—北関東ブラジル人学校の事例」。第 8 章「人と学びをつなげる—『あーすぶらざ外国人教育相談窓口』が果たす役割」。コラム「自主夜間中学について考える研修会」。第 9 章「排斥の実態とその背景にある心理学的プロセス」。第 10 章「学びから排除される外国につながる子どもたちの行方」。第 11 章「日本語習得をはばむ壁：母語との言語文化的距離に着目して」。座談会

### ○公共圏構築への貢献

公共圏とは意見交換と合意形成をめざす開かれた公共の場をさすが、本研究は夜間中学関係者が共に学びあう場をつくり育ててきたという点で、公共圏構築に貢献してきたという成果を上げてきたと言える。公立夜間中学関係者が学びあう場として年 1 回の全国研究大会があるが、自主夜間関係者が定期的に学びあう場はなかった。この事実を踏まえ、本研究グループは、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会および「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」と共同で、「自主夜間中学について考える研修会」を 2022 年 12 月から開始し、2024 年 3 月までで計 10 回の研修会を開催した。これまで、札幌、千葉、西和（奈良）、函館、静岡、名古屋、京都、我孫子（千葉）、川口、釧路、栃木の自主夜間中学関係者が取り組んでいる教育実践や直面している課題などについて報告し、意見交換を行った。研修会の内容はすべて PDF ファイルとして作成し、宇都宮大学にリポジトリ登録して一般公開している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 田巻 松雄	4. 巻 54
2. 論文標題 栃木県における外国人生徒の進路状況－12回目の調査結果報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 39,48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鄭安君	4. 巻 19
2. 論文標題 南米ルーツ大学進学者のキャリア形成とダイバーシティ－13人の「深層的なダイバーシティ」に着目した一考察－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 異文化経営研究	6. 最初と最後の頁 103,118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo Tamaki	4. 巻 Vol.13
2. 論文標題 From Foreign Child to Deportee: The Case of T, a Brazilian Man of Japanese Descent who Lived in Japan for 20 Years	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Social Theory and Dynamics	6. 最初と最後の頁 41,53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田巻 松雄	4. 巻 51
2. 論文標題 栃木県における外国人生徒の進路状況 - 11 回目の調査結果報告 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 44,55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田巻松雄	4. 巻 13
2. 論文標題 コロナ禍のこんな時こそ、夜間中学の必要性はいよいよ増している	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田巻松雄	4. 巻 50
2. 論文標題 栃木県における外国人生徒の進路状況－10回目の調査結果報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川朝子、榎井縁、比嘉康則、山本晃輔	4. 巻 7
2. 論文標題 外国人生徒の進学システムに関する比較研究 神奈川県と大阪府の特別枠校の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人間科学研究科・附属未来共創センター『未来共創』	6. 最初と最後の頁 275-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川朝子、喜始 照宣、芝野 淳一	4. 巻 26
2. 論文標題 中華学校における進路開拓の動向－横濱中華学院と横浜山手中華学校を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京大学宇都宮キャンパス人文編 研究年報	6. 最初と最後の頁 27-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木一隆	4. 巻 51
2. 論文標題 文脈依存度と日英語主語の比較：英語から自然な日本語への翻訳に焦点をあてて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田巻松雄	4. 巻 第48巻
2. 論文標題 栃木県における外国人生徒の進路状況－10回目の調査結果報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 81～86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 横溝環
2. 発表標題 サードプレイスとしての地域日本語教室のこれから オンライン開催に伴う変化と課題
3. 学会等名 日本質的心理学会第17回大会（2020年10月24日オンライン開催）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 佐々木一隆 / 田巻松雄編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 下野新聞社	5. 総ページ数 207
3. 書名 外国人生徒の学びの場 多様な学び場に注目して	

1. 著者名 Matsuo Tamaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 下野新聞社	5. 総ページ数 159
3. 書名 From Foreign Child to Illegal Immigrant-The Case of T, a Brazilian Man of Japanese Descent Who Lived in Japan for 20 Years	

1. 著者名 田巻 松雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 宇都宮大学	5. 総ページ数 100
3. 書名 夜間中学と定時制高校－現状を知り、多様な学びの場の可能性を考えよう	

1. 著者名 田巻松雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 宇都宮大学	5. 総ページ数 156
3. 書名 宇都宮大学HANDS10年史－外国人児童生徒教育支援の実践	

1. 著者名 田巻松雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 宇都宮大学	5. 総ページ数 87
3. 書名 公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える	

1. 著者名 田巻松雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 下野新聞社	5. 総ページ数 204
3. 書名 ある外国人の日本での20年ー外国人児童生徒から「不法滞在者」へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	スエヨシ アナ (Sueyoshi Ana) (10431694)	宇都宮大学・国際学部・准教授  (12201)	
研究分担者	佐々木 一隆 (Sasaki Kazutaka) (20162357)	宇都宮大学・国際学部・教授  (12201)	
研究分担者	横溝 環 (Yokomizo Tamaki) (20733752)	茨城大学・人文社会科学部・准教授  (12101)	
研究分担者	中村 真 (Nakamura Makoto) (50231478)	宇都宮大学・国際学部・教授  (12201)	
研究分担者	立花 有希 (Tachibana Yuki) (60736198)	宇都宮大学・国際学部・准教授  (12201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 朝子  (Ishikawa Tomoko)  (60759877)	下関市立大学・都市みらい創造戦略機構・特任教員    (25501)	
研究分担者	佐々木 優香  (Sasaki Yuka)  (60907799)	筑波大学・人文社会系・特任研究員    (12102)	
研究分担者	三浦 美恵子  (Miura Mieko)  (90709015)	国際医療福祉大学・保健医療学部・講師    (32206)	
研究分担者	鄭 安君  (Tei Anjun)  (70769455)	宇都宮大学・国際学部・コーディネーター    (12201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関